

今日つれづれ

神戸 陸史（ハウゼコ）



さて、少し早いですが、今年のスポーツ関連の話題を振り返ると、五郎丸選手、ソフトバンクの工藤監督、国立競技場問題で丸坊主にした元首相、などが記憶に新しいですが、私の中の一番は、テニスの錦織君が世界ランキング4位になったことです。

今までテニス界では、BIG4とよばれるジョコビッチ、フェデラー、マレー、ナダルと、それ以外の獲得ポイントの差が大きく、これに食い込むのは至難の業（わざ）とされてきました。昔のポイント制と違い、現在のポイント上位者は、グランドスラム（全豪・全仏・全英・全米）等16大会への出場が義務づけられています。そのため、フィジカル面で劣る日本人にとって不利な形になっています。

3年前のジョコビッチとナダルの全豪オープン

決勝戦は5時間53分に及び、スタミナ面でも日本人は不利。そんな状況の中、日本人の錦織君がBIG4に食い込んだわけですから、とっても勇気づけられました。

それと共に、このニュースで再認識したのが、クルム伊達公子も世界ランク4位だったということと、45歳の現在の日本ランキングもいまだ2位をキープしていることです。彼女も実はとっても華奢で体が小さいです。それでも「ライジングサン」と異名をとる「ボールのあがりっぱなを捕らえて打ち、相手の時間を奪うこと」によって有利に試合を運ぶ「スタイルで世界と戦っています。これは、錦織君も同じスタイルです。華奢な日本人はこうでもしなきゃ勝てないわけですね。